

(5) 東 海



東海地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産はこのところ緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

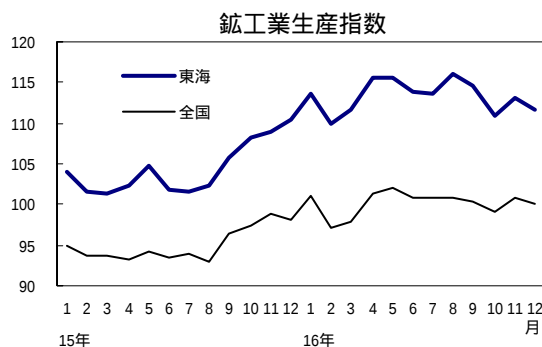
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 16 年 11 月）	今回（平成 17 年 2 月）	
景況判断	力強く回復	回復	↓
鉱工業生産	堅調に推移	このところ緩やかに減少	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はこのところ緩やかに減少している。

輸送機械は、完成車、自動車部品ともに高水準で推移したものの、増産余地に乏しく、四半期でみるとやや減少している。一般機械は、金属工作機械が国内外の自動車関連向け、一般機械向けを中心に高水準で推移したことなどから、増加している。電気機械は、制御機器が自動車関連向けを中心に高水準で推移したものの、主に海外向け半導体関連に弱い動きがみられたことなどから、減少に転じている。窯業・土石は、ファインセラミックスが自動車向けを中心に高水準で推移したものの、携帯電話向けに弱い動きがみられたこと、陶磁器がタイル・飲食器を中心に低調に推移したことなどから、おおむね横ばいとなっている。化学は、自動車関連向けが高水準で推移したものの四半期でみると減少に転じている。電子部品・デバイス、デジタル家電、携帯電話向け需要の低迷により、大幅に減少している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成 16 年 12 月の東海は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
輸送機械	33.9	▲1.1	▲0.9	1.0	▲27.8
一般機械	11.3	2.3	4.2	5.8	2.3
電気機械	7.3	3.7	▲5.8	0.0	▲6.7
窯業・土石	6.1	▲1.3	▲0.2	▲4.0	2.5
化学	5.4	3.8	▲1.3	▲2.9	▲0.7
鉱工業	100.0	▲0.2	▲2.5	▲0.4	▲4.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

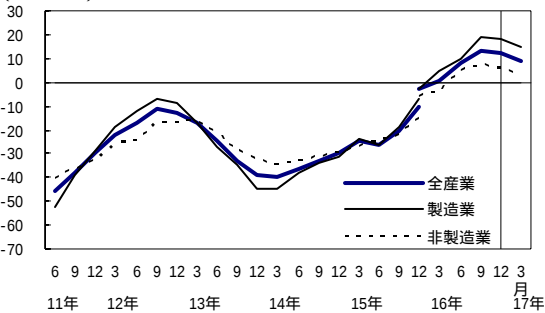
2. 10～12 月期は速報値。

3. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

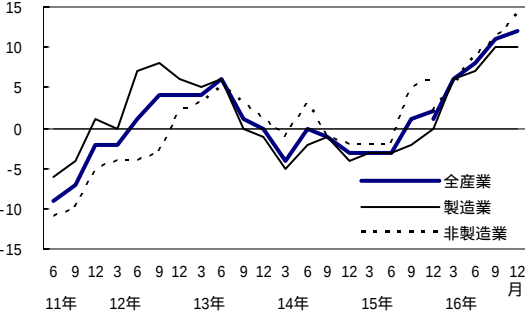
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



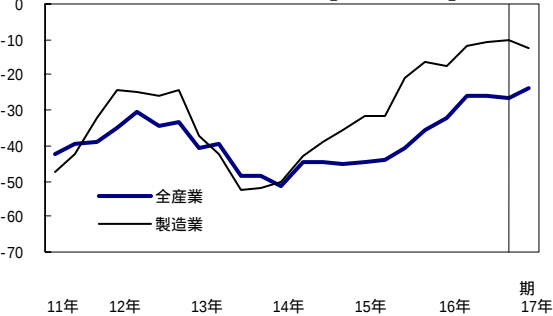
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年3月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査 (1 月) [企業動向関連 (現状)]

「素材価格が上昇しているため取引先に値上げを要請していたが、徐々に受け入れられている (化学工業) 」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

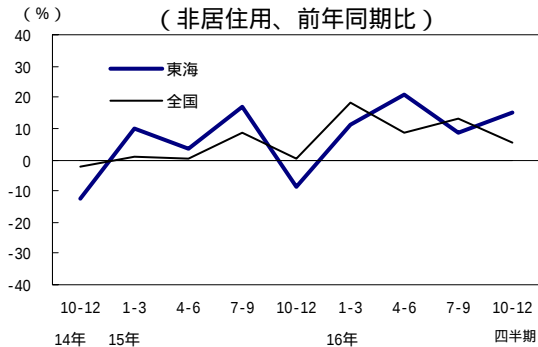
(3) 16 年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12 月調査)]

	(前年度比、 %)	
	15 年度実績	16 年度計画
全 産 業	▲3.4	12.5 [10.0]
製 造 業	0.4	23.5 [15.6]
非 製 造 業	▲6.8	1.9 [4.4]

(備考) [] は前回 (9 月) 調査結果。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

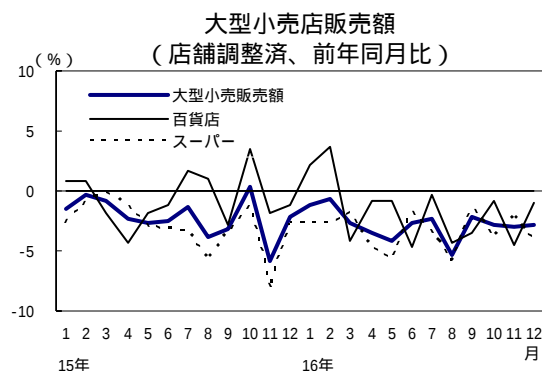
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、プロ野球関連セールの盛り上がりが一部にみられたものの、台風の襲来の影響により、前年を下回った。11月は、暖冬の影響により冬物衣料品を中心に不振だったことから、前年を下回った。12月は、クリスマス前後の曜日配列に恵まれたことなどから、身の回り品が前年を上回ったものの、月前半の暖冬の影響から、前年を下回った。なお、名古屋市内主要5百貨店の1月の売上高は、前年同月比で2.9%増となっている。

スーパーは、暖冬の影響により、期間を通じて衣料品が前年を下回ったことなどから、全体としては平成14年12月以降、25か月連続して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「エビ、カニなどの高額食品は予定以上に売れているが、それ以外の商品の動きが非常に弱く、全体では単価は低迷している(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



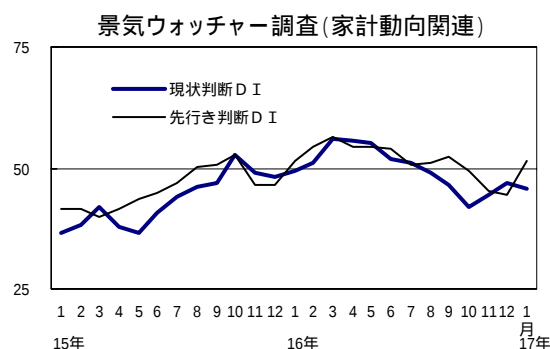
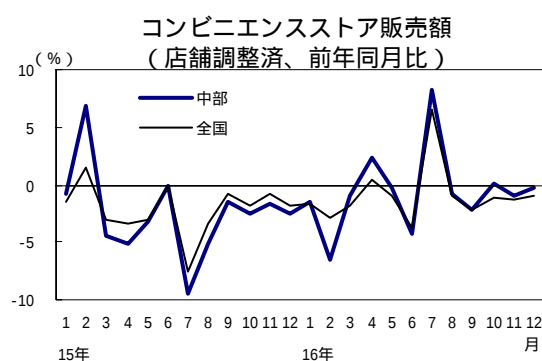
(前年同期比、%)

	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	▲1.5	▲3.4	▲3.2	▲2.9
百貨店	0.3	▲2.1	▲2.4	▲2.0
スーパー	▲2.4	▲4.1	▲3.7	▲3.4
コンビニ	▲3.0	▲0.8	1.7	▲0.3
景気ウォッチャー	52.1	54.2	48.8	44.5

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

中部地区。

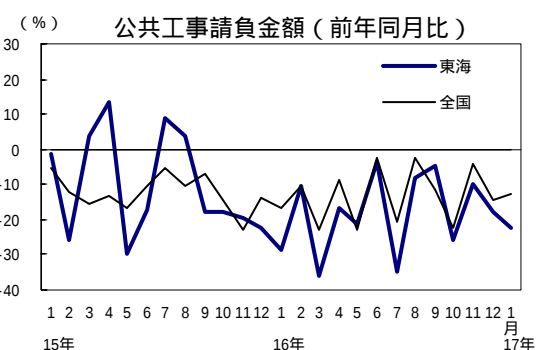
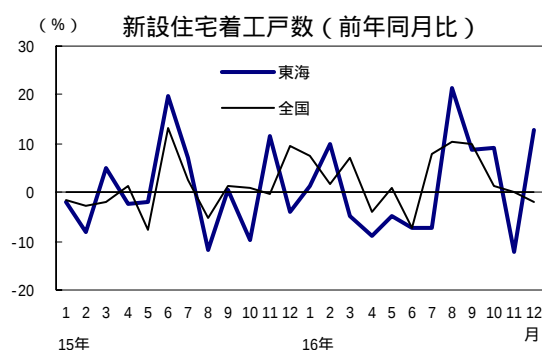
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

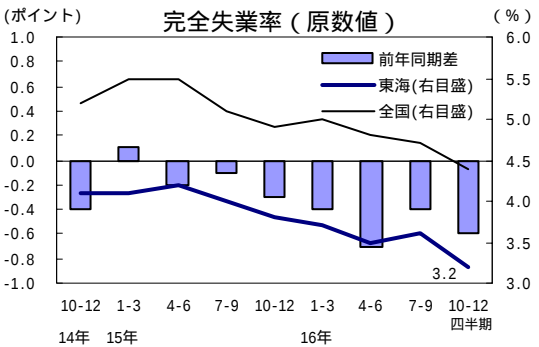
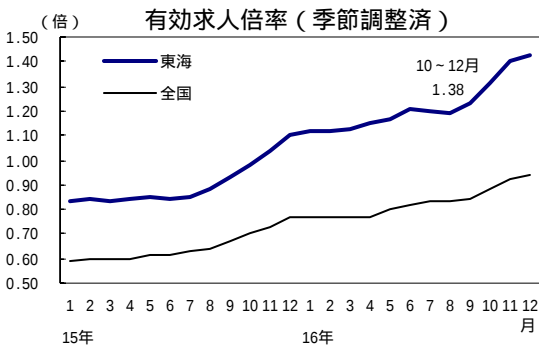
分譲が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は16年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



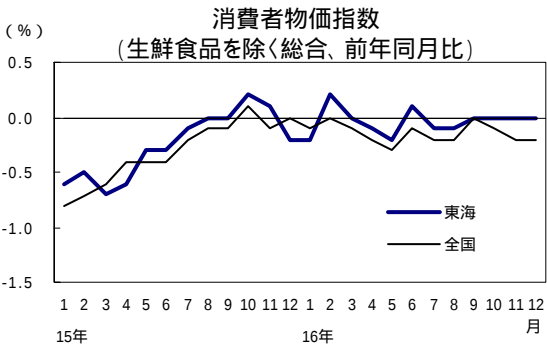
景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]
「求職者のうち雇用保険資格取得者による求職は減少傾向にある。その一方で、在職者による転職申込が増加している（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。
1月に負債総額が大幅に増加している。

- (3) 消費者物価指数は横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	17年1月
倒産件数	336	283	290	325	115
(前年比)	▲25.8	▲30.5	▲17.1	▲3.3	9.5
負債総額	1,400	879	1,069	3,141	1,538
(前年比)	▲12.8	▲20.4	▲33.4	▲23.9	558.1



- 景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]
<現状>
・3か月連続で月間有効求人倍率は2倍を超えている。多くの業種で様々な企業から求人がある。求職者も減少しており、特に事業主都合による離職が大幅に減少している（職業安定所）。
<先行き>
・愛知万博の開催に伴う好影響があるが、人件費を中心に経費が上昇しているため収益は期待するほどには見込めない（都市型ホテル）。

